

前回の個別フォローから、間にGWを挟んだことから、GWの特別な取り組み企画があったり、10プロでも色々な出来事がありました。

GWの企画でのメンバーのミスやそのやり取りについて、どうして的確に伝えることが出来なかったのか。

過去のメンバーとの出来事でも、私はある断片を見て楽観的に信じていた(やり取りを見て理解している「だろう」と思った)ことを思い出しました。今回も同じパターンだったことに気が付いた。

職業柄、大量の書類やデータを短時間にさばく必要もあるので、早読み(多少の誤読リスクを覚悟の上で、主な所だけを早く拾っていく読み方)の習慣が付いていることもあったと思う。

ちょっとした違和感をすぐに頭の中で言語化して、相手に伝わる言葉で伝える。

10プロの中でずっと訓練していることでありながら、まだそこに達していない現在地を改めて知りました。

それでも訓練を続けていくしかないのだと思います。

また、日常でなかなか出会わない人達のことをどう知って、その思考を断片的な会話から拾っていくことについての、陽子さんの事例を聞くことが出来、私も街中でも拾っていこうと思いました。

その後早速、休日の昼食に立ち寄ったレストランで、出身大学のどنگりの背比べをしているような会話の大学生男女のペアを見かけて、こういう感心事の人もあるんだなと改めて感じました。

最後に陽子さんから、合宿に向けての私の準備のために、家族について問いかけてくれました。

私の不安から来るような行動を選ばずに、子供の意思をベースとした選択をしていくということを伝えられました。

確かに、子供は環境変化に最初こそ戸惑っていたものの、私の慣れる速度よりもずっと早く、今の環境を楽しんでいるようです。

私のことも、私の子供のことも、どうでもよければ、あえて口に出さないことを、伝えてくれたことを感謝しています。

合宿で、メンバーの皆さんも含めての話が出来るといいなと思っています。

(A.S 40代女性 北海道)